
AIJ かわら版'80　昭和55年（1980年）5月2日（金曜日）

会員探訪

交通安全

結婚記念日

編集後記


AIJ かわら版'80　昭和55年（1980年）5月2日（金曜日）

青年大会

五月例会

八十年代の日本経済と これからの青年経営者の在り方について

部会報告

「編集後記」より　広報室　浅野　雄太

今から四〇年前のかわら版。各記事から現在との様々な違いを見つけることができますが、編集後記にもその一端を垣間見ることができました。

広報室の編集会議が開催されたのは会員のご自宅。作業の後には奥様の手料理も振舞われ、散会したのが十一時とのことですから、会議後の会話も盛り上がったご様子が伺えます。

今となってはこの様にご自宅にお邪魔しての会議というのは、なかなか難しいと感じます。今の世の中、自分の自宅を仕事の会議の場として提供することに抵抗を感じる人の方が多いのではないでしょうか。

これは善し悪しではなく、当時の社会はそれを肯定的に評価する状況だったということであり、現在においては、それは家庭への配慮に欠ける評価をする状況に変化したということかと思います。

世間の評価軸はある日突然ガラッと変わるものではなく、少しずつ変化し少しずつ変化していて、気付いたときには真逆の評価になっているなんてことも起こり得ます。

そうした変化の兆しに敏感でいられるよう、日々自分のアンテナを研ぎ澄ませておきたいものです。

五月例会～八十年代の日本経済とこれからの青年経営者の在りかたについて～　広報室　長岡　秀明

時代は繰り返される。当時はオイルショック、今はコロナ。内容は違えど両方には一つの共通点があります。

それは、一次、二次（一波、二波）といった形でまるでボディーブローのようにジワジワと効いてくる様な揺さぶりをかけられている事。

現在東京では感染拡大を懸念して緊急事態宣言が発動され、多くの業種で大打撃となっています。特に飲食業は壊滅状態です。

そうした中で今の私たちに必要なものは何か？

個人的に思うことですが、各々の企業が構造改革をする時期が来たのだと思います。

今までは対面で行っていた会議や営業職の商談にZOOMを用いる企業が増えてきました。

キャバクラもZOOMにすればいいのに。

もしかしたらコロナウイルスが現代を変化に臨機応変に対応できる企業だけが生き残る時代が到来したのかも知れませんね。

今後、量より質で多様化できる手助けをしてくれるのかもしれないです。

